

毎日の生活の中で、関わり方の積み重ねにより育むことができる「生きるための力」。
 幼児期に育むべき「8つの力」と、それを引き出す関わり方を紹介します。

- 親に依存して生きることから「自立」の世界へ！
 甘えることができた子どもほど伸びる！ 「自分の足で立つ力」
- 生きていく上で必要「自分で考え、決断する力」
 言葉の発達とともに、日々の会話の積み重ねで養われる 「考える力」
 幼児期から場数が大切！ 年齢に合わせた質問で養われる 「決断力」
- 良好な人間関係を築く上で大切な能力
 コミュニケーションの要！ 相手の気持ちを思いやる 「共感力」
 自分の主張を一部退け、相手と譲り合う 「折り合いをつける力」
- 学校や社会で成功・活躍する鍵！
 心の筋肉！ 困難に負けずいける 「レジリエンス」
 才能や知能指数よりも大事！ やり抜く力 「グリット」
 IQよりも学力に影響大！ 今を我慢する力 「セルフコントロール力」

たのびが

R3.3.12



子どもは「遊び」を通して多くのことを学んでいます。

- 運動スキル... 総合的なスキルから、手指など局所的な運動スキルが身に付きます。
 - 思考力... 「～だからどうなるだろう？」といった推測力や論理的思考力。また問題解決するためのアイデアも。
 - 言語力... 相手に伝えるために工夫することで、表現力や言語力が身に付きます。
 - 自制心... 二本以上すると相手を傷つけてしまうことと自らの行動を制御する感覚を学びます。
 - 想像力... イメージが膨らみ、形をとることで想像力が豊かになり育ちます。
 - 社会性... ルールを覚え、相手思いやり、協力し合い、と社会で必要とされる姿勢を身に付けます。
- 人が最大限の力を発揮できる「フロー状態」... 遊びを通じ自発的に深く遊びに没頭する、リフレッシュし集中力を。

「遊び」の正しいところは、こうしてスキルや能力を、習い事のように大人の指導によって学ぶのではなく

自発的に楽しむから身につけてしまえることです。

「遊び上手」へと導くヒント

- ① 場と時間の確保
- ② 「仕事モード」を横に置く
- ③ 五感を活用する
- ④ 応用の利く玩具を与える
- ⑤ 想像力を刺激する言葉がけをする
- ⑥ 普段から想像力を豊かにする働きかけをする



生き生きと「自分らしさ」を伸ばすように
 (心がけたいポイント)

- ・ 自分の気持ちを大切にすること
- ・ 自分の気持ちから行動していることを褒めてあげる
- ・ 成功も失敗も体験することの大切さを伝える
- ・ 子どもの試行錯誤を先回りして援助げない、見守る忍耐をもつ

Q これのことはいませいか？

- ・ 命令、指図
- ・ 禁止
- ・ 容認できず
- ・ 努力の強要



たとえば些細なことでも、自らの行動の積み重ねが、「自言」や「生きる力」を育てます。

わかってはいるけど、つい... 今からでも大丈夫!! (知っているだけでも違う!)